

| | | |
|------------------|---|-----|
| 1 年 算数 | 「ヘビヘビじゃんけん」でどっちがながい？～ながさ～ | 1年③ |
| 目 標 | 間接比較を活用して、長さの大小を比較することができる。(技能) | |
| 使用した ICT 機器類・教具等 | 大型テレビ、OHC、HDMI ケーブル、タブレット端末、ワイヤレスディスプレイ | |
| 思考ツール・プログラミング | PMI ツール | |

◆プログラミング的思考とのつながり

- ・ PMI ツールを用いることで、よさや欠点を見やすくまとめ、情報を比較しやすくすることができる。

◆授業の実際

1 先生のヘビと自分のヘビの長さを比べる方法を考える。

- 並べて直接比較するという既習の方法が使えないため、どのようにして長さを比べたらよいか迷っていた。
- 生活経験の多い子が中心に意見を出したり、長さを比べるのに使えそうな物を見つけたりしていた。
- 紙テープを見つけてからは、既習事項と2年生が紙テープで作っている野菜の生長のグラフの様子とを照らし合わせるなど、発言をつなげていき、先生のヘビと同じ長さの紙テープを一人1本作って、それと比べるやり方までたどりつくことができた。



[かわりになるものを探している様子]

2 「ピンビリピタほう」を使って自分たちのヘビを比べる。

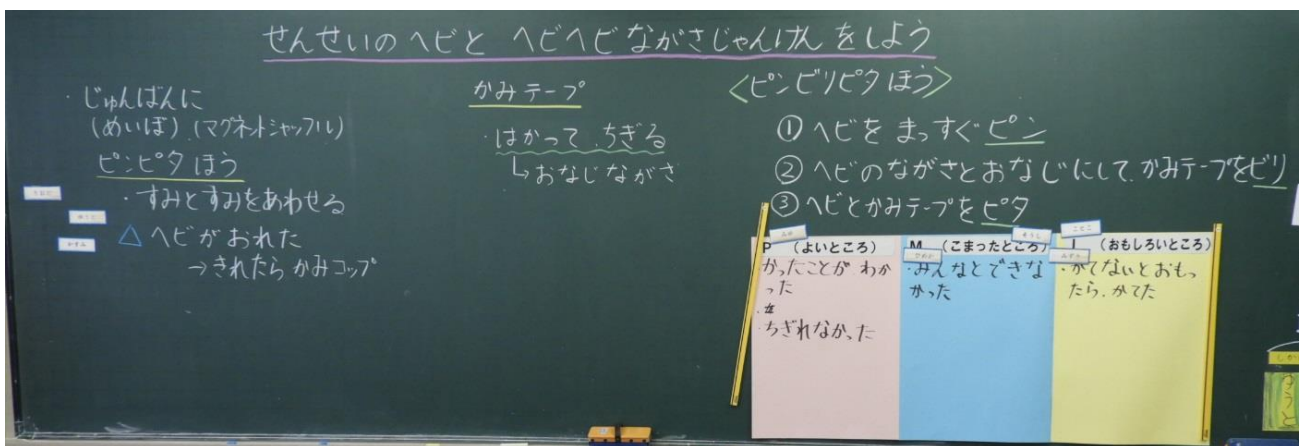
- 次に、紙テープを自分のヘビと同じ長さに切り、友達のヘビの長さ比べていった。端を揃えて比べることについては、前時までと同じことをしているため、「〇〇さんより長いよ」「〇〇さんより少し短いよ」など、ほぼ全員が正しく比べることができた。



[紙テープを使い、長さを比べている様子]

3 色分けした「PMI ツール」を使ってまとめる。

- 前時の学習で、「何回も比べると切れちゃう」という感想をもった子がいた。そこで、本時の様子に注目して記録していたため、P (よいところ) の部分として期待したい内容の発言を引き出すことができた。
- P (よいところ) やM (こまったところ) は、的を射た発言をすることができており、紙テープを使って比べることのよさを実感することができた。I (おもしろかったところ) については、感想を述べるにとどまった。



◆実践を通して

- ・ 比べ方の方法の名前を、擬音語や擬態語で捉えた言葉でつけたおかげで、子どもたちは比べ方を身近に感じたり、手順を名前覚えていたりして、とても有効であった。
- ・ 色分けしたPMI ツールでまとめたことで、紙テープを使って長さを比べる方法に対する考えを見やすく整理し、他の方法との比較につなげることができた。ただ、I の部分が単なる感想になってしまい、PMI ツールを生かして切れていない面もあった。

